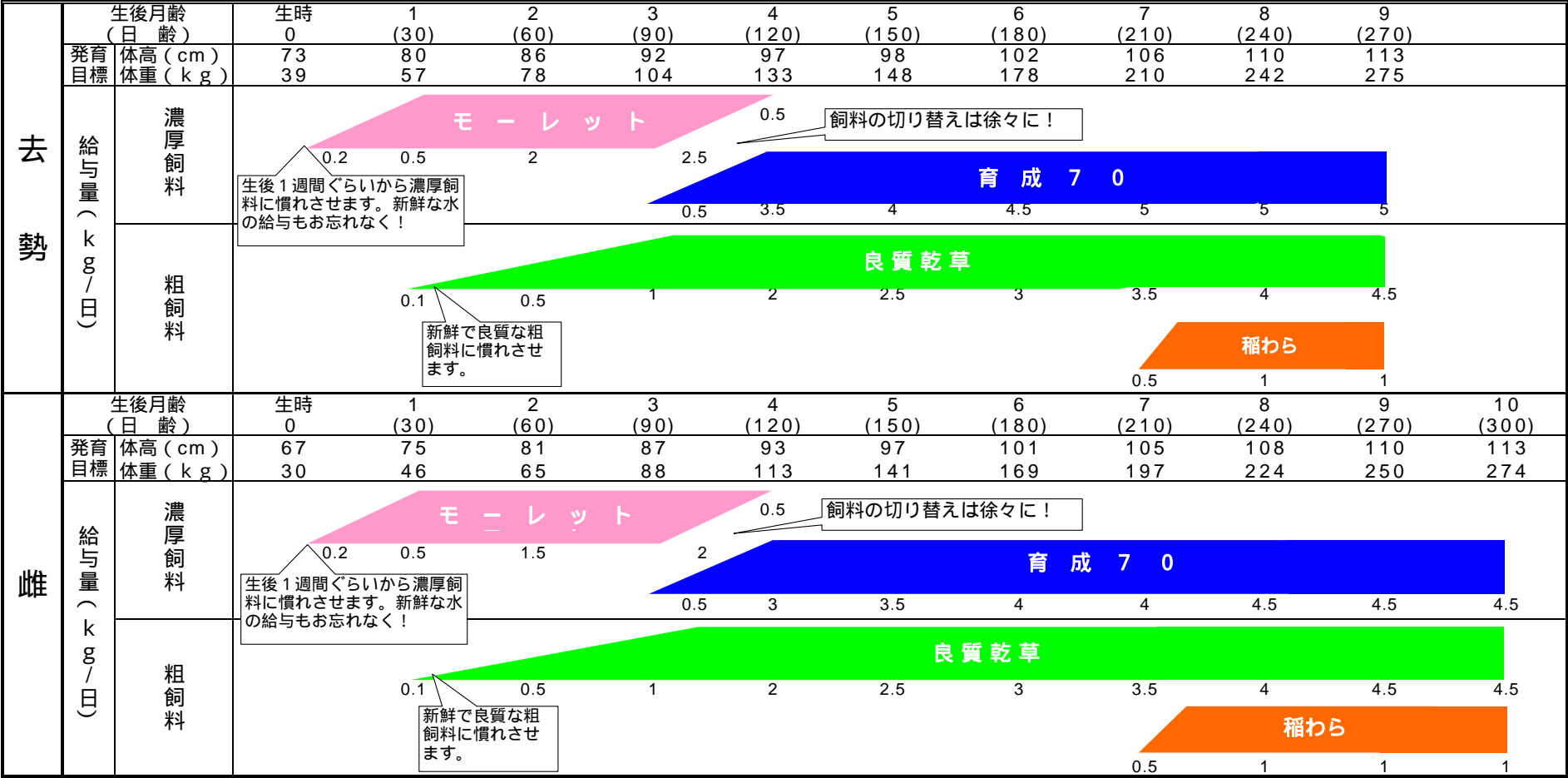


J A 長崎せいひ 子牛飼育マニュアル

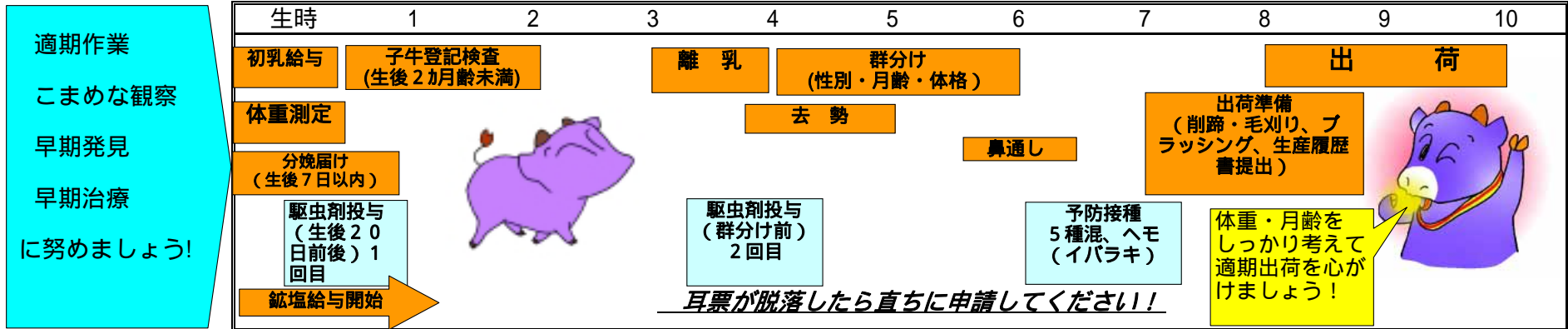
【出荷目標】・丈夫で健やかな子牛をつくろう！ 去勢 270日齢以内 270kg以上 雌 300日齢以内270kg以上

【管理目標】・なにごとにも観察が大事！・我が子以上に愛情をかけよう！・生後4カ月齢までの管理が勝負です！！

1 子牛の飼料給与量



2 子牛の管理作業



3 子牛の飼養管理のポイント

飼料給与

子牛の健やかな成長には、食べた栄養分をたくさん吸収できるように第一胃内の絨毛の発達がきわめて重要です。早期からの濃厚飼料の給与が、この絨毛の発達を促進します。生後1週間からモーレットに慣れさせてください。また、新鮮な水の給与をお忘れなく！！

生後3カ月齢までは、粗飼料給与よりもモーレット給与を重視しましょう。

4カ月齢までに、モーレットから子牛育成7.0に2週間をかけて緩やかに切り替えましょう。

なお、急激な飼料の切り替えは、消化不良など下痢の原因になるので注意が必要です。

生後3カ月齢から鉱塩を与えてミネラル補給に努めましょう。できれば、尿石症を予防できる鉱塩(カウストーン)を利用しましょう。

生後7カ月以降は、良質乾草を十分食い込ませましょう。

疾病対策

日頃から、牛舎内外は清潔に保ち、入口には踏み込み消毒槽を設置するなど衛生管理に努めましょう。

下痢が発生したら、乾燥・消毒した牛房に隔離して、直ちに獣医師の診断を受けましょう。まずは、観察、早期発見が大切です。

寄生虫の駆除剤や使用については、獣医師に相談しましょう。

子牛用のパドック等でスペースを確保し、密飼いは避けましょう。

分娩時

分娩室の確保および分娩前は、こまめな牛床の清掃、消毒及び乾燥に努めましょう。

分娩後は親牛の乳房、乳房をきれいにふき、1時間以内に初乳を飲んだか確認しましょう。

親牛が飲まない時があるので、「さいしょのミルク」、「ヘッドスタート」などの代用初乳をあらかじめ準備しておきましょう。

その他の管理

冬期は、すきま風の防止、ヒーターの利用や子牛ベスト着用及び敷き料を多めにするなど防寒対策に努めましょう。なお、くれぐれも火災には注意してください！

盛夏時は、通風換気や新鮮な水の給与など暑熱対策を行いましょう。

4 子牛の各部位の発達時期

